ファンギゾン®注射用50mgと
アムビゾーム®点滴静注用50mgの
取り違え注意のお願い

2026年10月
チェプラファーム株式会社
住友ファーマ株式会社

謹啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、チェプラファーム株式会社製品「ファンギゾン®注射用50mg」と住友ファーマ株式会社製品「アムビゾーム®点滴静注用50mg」の取り違えによる死亡事例が1例報告されました（次頁参照）。

両薬剤は、同じ有効成分（アムホテリシンB）を含有しますが、用法及び用量（投与量・投与時間）、調製方法が大きく異なり、同じ用量で置き換えることはできません。薬剤の取り違えを防ぐため、処方時には一般名（アムホテリシンB）だけでなく、販売名を明記し、特に投与量をご確認いただくようお願い申し上げます。また、処方オーダーシステムにおける警告表示などの防止策をご検討くださいますようお願い申し上げます。

謹白

重要：取り違えにご注意ください

ファンギゾン注射用とアムビゾーム点滴静注用の取り違えに起因する
ファンギゾンの過量投与後に死亡に至った事例が報告されています

ご留意いただきたい点

- 処方オーダー、処方監査、調製又は投与の各段階で、一般名だけでなく**販売名、用法及び用量を確認してください**
- **両薬剤は投与量・投与時間が異なります**
- **両薬剤は同じ用量で置き換えることはできません**

処方時の両薬剤の取り違え（過量投与）による死亡事例

＜事例内容＞

・ 心不全を併存する移植後の患者。移植後 ICU にて全身管理中に心不全からショック、多臓器不全となった。抗真菌薬を変更する際、外科より相談を受けた内科医師はアムビゾームを想定して「アムホテリシン B 5mg/kg 1日1 回 1-2 時間かけて投与」とカルテ記載。外科医師はカルテを参照しつつアムホテリシン B 注射製剤として「ファンギゾン 250mg（約 5mg/kg）」を重症部門専用のシステムで指示した。ファンギゾン投与 1 時間後、心静止となり、死亡。翌日ファンギゾンの投与量･濃度･速度の過剰が判明した。

＜背景･要因＞

・ アムホテリシン B 注射剤として「アムビゾーム」と「ファンギゾン」の 2 種類の製品を採用していることが処方した医師に十分認識されていなかった。

・ 重症部門システムでは、薬剤の上限用量のチェック機構がなく、警告等が表示されなかった。

・ 重症部門において病棟薬剤師による投与前の監査は必須ではなく、夜間は薬剤師の監査なしに投与される運用であった。各部署の使用薬剤の一括請求を目的とする注射剤伝票には、患者情報、用法･用量等の処方監査に必要な情報の記載がなく、薬剤部での処方監査は行われていなかった。

出典：公益財団法人日本医療機能評価機構「医療事故情報収集等事業」

医療事故情報事例ID：A0F97888344481EC1より改変

対策のご検討をお願いします

処方オーダーシステムの対策例

薬剤マスタの表示方法を工夫し、ファンギゾンとアムビゾームの誤処方を防止する。

- 「一般名：アムホテリシンB」で検索した際にポップアップを表示させる：
  「**ファンギゾン**」を選択した場合：
  例）「**同一有効成分を含むアムビゾームと投与量が異なることに注意**」を表示

  「**アムビゾーム**」を選択した場合：
  例）「**同一有効成分を含むファンギゾンと投与量が異なることに注意**」を表示

周知のお願い

ファンギゾンとアムビゾームの両薬剤の取り違えによる医療事故について**周知**をお願いいたします。

- ファンギゾンとアムビゾームの両薬剤を取り違えやすい医薬品として認知する機会を設けてください。
- 医師・薬剤師等の方が新たに配属になった際には、特に周知を徹底してください。
- 両薬剤の販売名、用法及び用量等を記載した表（本資料の次頁）を薬局内に掲示していただく等ご活用ください。

ファンギゾン注射用50mgとアムビゾーム点滴静注用50mgの違い

両薬剤は投与量、調製方法が異なり、置き換えられません。

処方・調剤、調製・投与の際は、販売名、投与量及び投与時間を確認してください。

販売名	ファンギゾン®注射用50mg	アムビゾーム®点滴静注用50mg
一般名	アムホテリシンB	アムホテリシンB
製剤特性	**デオキシコール酸塩製剤**	**リポソーム製剤**
通常投与量（真菌感染症に静注する場合）	**0.25-0.5** mg/kg/日	**2.5-5** mg/kg/日
調製方法	注射用水等**10mL**でゆっくり振盪・溶解。 5%ブドウ糖液**500mL以上**で希釈。	注射用水**12mL**で激しく振り混ぜ・溶解。 **5μmフィルターろ過**後、 5%ブドウ糖液**100又は250mL**で希釈。
投与時間	**3～6時間**以上かけて点滴静注。	**1～2時間**以上かけて点滴静注。
過量投与	**心停止、呼吸停止**が起こることがある。 本剤は血液透析によって除去できない。 （注）過量投与に加え、重大な副作用に心停止の記載があります。	血液透析や腹膜透析では、本剤は体内から除去されないと思われる。 （注）重大な副作用に心停止の記載があります。
製剤写真	 GS1バーコード：ファンギゾン注射用50mg (01)14987994500217	 GS1バーコード：アムビゾーム点滴静注用50mg (01)14987116601013
お問い合わせ先	**チェプラファーム株式会社** メディカルインフォメーションセンター TEL：0120-772-073 受付時間 9:00～17:00 （土・日・祝日・当社休業日を除く）	**住友ファーマ株式会社** くすり情報センター TEL：0120-034-389 受付時間：月曜日～金曜日 9:00～17:30 （祝日・当社休業日を除く）

製品をご使用の際は最新の電子化された添付文書をご確認ください。

本情報の留意点

・情報の作成に当たり、弊社は正確性について万全を期しておりますが、それを保証するものではありません。

・本情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。

MPVI-FUN01-A
26100AMB
2026年10月作成